

校番	16	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	高等学校用
----	----	----------	-------	------	---	-------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹高等学校	校長	見村眞由美	生徒指導主事	岡本茂生
-----	--------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『大竹高校 体育祭』****取組のねらい『キーワード チームの団結・共感的人間関係の形成』**

・行事の意義や本校行事の歴史的経過などを十分に理解させるとともに、クラスの団結や各学年の役割など、個の力の集結が大きな力になることを日々の実践から学習させ、良好な人間関係を築く。

**身に付させたい資質・能力**

- ・みんなで協力し目標を達成しようとする態度
- ・最後まで全力でやりきろうとする力

**取組の具体的内容『キーワード リーダーシップ・所属感』**

- ・縦割りの色別に分かれた各チームに、3学年がリーダーシップを発揮し、掛け声や足並みをそろえた行進練習をチームごとに行うなど、団結力を高める。
- ・入場行進コンテストを行い、地域の方々に評価していただき競技種目と同様に得点化する。
- ・クラス別男女とも校歌斉唱を行い、リーダーの声掛けから意欲を高めて種目練習を行う。
- ・学年種目には、フォークダンスを取り入れ、3年生の一体感をあらわす。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自信・達成感』**

- ・運動部活動による発表の場を設ける。
- ・大きな声を出し全力でがんばることへの抵抗感や恥ずかしさを感じている生徒に対して、チームとして助け合うために一人一人の存在が必要であることを理解させる。
- ・声の大きさを示す指標としてサウンドレベルメーターを使用して数値化することで意欲の向上を図った。
- ・我慢することの苦手な生徒が多く、ガマンをテーマにした競技種目を導入した。



### 取組の成果（効果）『キーワード 連帯感』

- ・ 声を出すことが数値としてあらわれ、全体を引っ張る意識付けになり各学年において意欲の向上が見られた。
- ・ 各学年種目において、声を掛け合う・戦術を練るなど、クラス内においての自発的活動につながりつつある。

### 今後の展開『キーワード 自主自律』

- ・ 生徒会を中心に各部活動との協力体制を築き、企画・準備・運営など生徒主体で学校行事の運営ができるよう段階的に積み上げていきたい。
- ・ リーダーシップを取れる生徒の育成。
- ・ 本校独自の種目を検討し伝統化・継承する取組み。

### 他校へのアドバイス『キーワード とりあえずやってみよう』

- ・ 十数年前には体育祭の企画自体が難しかったが、生徒たちの力を信じて教職員が取組みを続けた結果が今の体育祭につながっている。地域の方々にも行事への参加をしていただいたり、他校の取組みから学び改善・改良を重ねてきた。本校では取り組むのが難しいと予測される種目などにもチャレンジをしてきた。心配するよりもまずやってみることが意外な成果をだすこともあり、失敗を恐れないことも何かをやり遂げるための重要なポイントであると再確認できた。